

金蘭会Tokyo

金蘭会東京支部会報

April 2012 No.19

編集・発行 金蘭会東京支部(大阪府立大手前高等学校同窓会)
事務局 阪本弁護士事務所内
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-2 みつわビル3F
ホームページ www4.airnet.ne.jp/t-kinran/



絵と私

山下 宮子(昭和34年卒)

そろそろ人生の黄昏時に到達したかと思われた60歳代後半のことです。ふと立ち止まり身の回りを見回した時、自分の人生はこれでいいのだろうかと考えてしまいました。

子育ての時期やその後の仕事(通訳関係)に生きがいを見出し、いた時期、夢中になって働いてきたような気がします。そして、おつりの人生が始まるようになった時、このまま、漫然と人生を終えていくのだろうかと思つたのです。その時、これではいけない、何か遺り残したことがあるような、若い頃から、やりたくてもやらなかったこと、気持ちにゆとりなく実行できなかったことを、今からでもやってみようという突き動かされるような思いに駆られてきました。



その果たせなかつた願望の一つが、油絵を描くということでした。思い立って一から絵の手ほどきを受けました。恐る恐る初めて絵筆を取った時のことを今も忘れられません。始めてみると、絵を描いている時は、全てを忘れられ、何も考えずただひたすら絵を描くことのみで没頭できる至福の時間が得られることに気がつきました。

私の趣味

小林(五十君) 充代(昭和48年卒)
チャイナペイントは、ポーセリン(陶磁器)の釉薬の上から描いた絵をキルン(電気炉)で焼成します。18年前、夫の転勤による北米在



住時に習い、夢中になり皿やカップを量産しました。帰国後は職に復帰して忙しく絵筆をとることも減りました。なにしろ一度描きだすと際限なく熱中するので最初の一步が踏み出せないのです。

子供たちが大学生になり、時間ができ、せめて年に一度はキルンに灯をとともそうと年末行事として新年の干支を題材にイヤープレートを作ることにして11年、11枚になりました。何故青と白で?と訊かれますが、ロイヤルコペ

Topics/News/Information

●仲間募集…「二子玉会」

東急田園都市線二子玉川駅周辺で開催する、異学年交流のできる少人数のランチ会です。昨年(第7回)は、「ハゲ天」に22名集まり、自慢のものを聞かせて下さる方もおられました。今年も10月の土日に開催予定です。



連絡先: 竹村 泉(昭和48年卒) ☎045-984-6362
E-mail: 426izumi-t@e08.itscom.net

●音楽仲間募集

「広く音楽を趣味としておられる方、年代を超えて一緒に音楽を楽しみませんか?」歌好きな方、楽器を演奏される方、また指導をしていただける方、皆で集まって練習したり、発表会を開いたりなど、一定の人数が集まれば活動を始めたいと思います。

連絡先: 松井 亮 (S45年卒)
E-mail: ryu742017@gmail.com

●支部会費

年会費として千円、終身一括払いとして一万円をお願いしております。既に終身一括払いをされた方は赤色の振込用紙が同封されていないはずですが、万一同封されている場合は、お手数ですが支部までお知らせください。

●3行広告、原稿募集

出版本、個展、講演会、講習会、教室等の有料広告のほか、メンバーズボイス、趣味やペットコーナー等原稿も募集しています。

●ご意見ご感想ほか問い合わせは、総務・森まで(TEL.03-3829-1548)または、金蘭会東京支部ホームページへ。

●金蘭会東京支部ホームページ
<http://www4.airnet.ne.jp/t-kinran/>
支部の最新情報がご覧いただけます。メールアドレス登録もこちらからお願いします。

●支部会計報告(平成22年度)(平成22年1月1日~12月31日)

収入の部	金額(円)	支出の部	金額(円)
前年度繰越	6,635,892	総会補助費	283,135
支部会費	282,000	支部運営費	174,474
(内訳)		(内訳)	
終身会費分	200,000	会議費	7,709
年会費分	82,000	事務所使用料	60,000
		会報印刷代	50,100
雑収入	20,000	通信費	2,150
貯金利息	725	HP費用	23,100
		雑費	31,415
		次期繰越金	6,481,008
合計	6,938,617	合計	6,938,617

編集後記

東日本大震災から1年が過ぎ、我々の意識を含めて様々なことが変わりつつあります。短い文章で伝えられることは、思いのうちのほんの一部に過ぎないと思われませんが、寄稿いただいた方々のご協力に感謝致します。

復興元年の総会で深めた絆

第87回金蘭会東京支部総会は、7月10日(日)に昨年と同じ新宿副都心のハイアットリージェンシー東京で開催されました。

東日本大震災の影響から当初開催が危ぶまれましたが、昭和55年卒の幹事学年からの参加者33名を含め、結果的に前年を上回る190名の参加者がありました。ゲストとして大阪から安橋金蘭会会長、栗山大手前高校校長をお迎えしました。最高齢参加者の堀朝子さんは、卒業後82年が経ち満100歳を迎えられました。益々お元気な様子で会場からの祝福に応えていらっしゃいました。

今回のイベントは昭和55年卒のデジタルアーティスト、女子美術大

教授の季里さんの講演でした。会場はスクリーンに映された季里さんの作品は、新しい才能に満ち溢れていました。今年も支部会員の絆を確かめ合い、濃密な時間を共有することができました。

当番幹事を終えて

豊田 大明(昭和55年卒)

私たちが当番幹事を務めた第87回総会では、CGアーティストとして活躍する女子美術大教授の季里さん(同期)が、彼女の仕事の足跡と我々が生まれた昭和36年から高校卒業の昭和55年までの時代変遷を、CGを駆使した見事な画像とユーモア溢れる語り口で講演し、会場は

大いに盛り上がりました。前年の総会に出席したことがきっかけで当番幹事を引き受け、かなり強引に同期6人を巻き込んだものの、震災の影響による自粛ムードや電力事情等々、気を揉むことも多々ありました。しかし、同期の幹事の多大なる協力と役員の皆様のご支援により無事終了し、当番幹事一同、胸を撫で下ろしております。

昭和54年卒の先輩から引き継いだ当番幹事という大手前の歴史が詰まった重い襷を昭和56年卒の後輩達に託し、今年は気楽な気持ちで総会に出席したいと思います。

阪本副支部長の閉会の言葉そのままに、府庁の隣で学んだ仲間と時を経て都庁の隣のホテルで集うのもまた良し。今年も楽しみにしています。

金蘭会本部120周年の記念式典



笑いと感動につつまれて

横尾 絹子(昭和50年卒)

昨年11月26日(日)、金蘭会120周年記念式典・総会親睦会が開催され、500余名の同窓生が大阪リーガロイヤルホテル光琳の間に集いました。式典前には、母校茶道部も参加しての華やかなお茶席や、金蘭会120周年記念クルーズを題材にした俳句・フォトコンテスト優秀作品展などがあり、優雅で和やかな雰囲気でした。

創設120年の伝統が感じられる記念式典に続き、親睦会では昭和62年卒業の歌手木山裕策さん(2008年NHK紅白歌合戦出場)の歌とトーク、母校吹奏楽部による演奏と楽しいクイズやダンスなどが披露され、笑いあり感動ありの充実の3時間でした。

次回の記念式典で、皆さんと元気に再会できるのを楽しみにしています。

リアルな愛犬だったり、コミック風だったり何でもアリですが、それが私らしさだと思います。

我が家のペット

幸吉くん
僕は幸吉。2歳です。猫種はメインクーンです。体重は7kgで、身長は101cm。「もっと大きくなあれ。」って言われて、困っちゃいます。趣味は小鳥の観察とお昼寝。毎日幸せに暮らしています。
岩田朋子(昭和53年卒)

セーラちゃん
私シェルティーのセーラ10歳独身。お茶目でおてんば・あわてんぼ。若い娘には負けないわ。あっ林檎! 私大好物よ早く頂戴! お座りして待ってるわ。お姉ちゃん早く起きて! 夜更かしは美容の敵よ。
田中淳一(昭和56年卒)



舞台で一軒、家を壊してしまった私



ソプラノ歌手 川本 伸子 さん (昭和 28 年卒)

今から半世紀位前のお話になりますが……私が東京芸術大学を卒業する頃はまだ東京は敗戦の状態を残っていて、上野公園には身寄りのない人、仕事のない人達が大量に居ており、その横を怖々歩いて学校に通っていました。

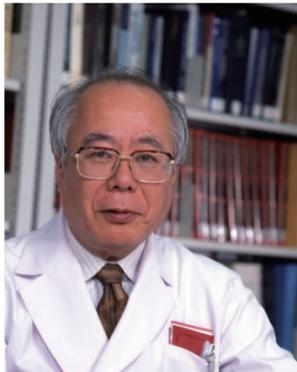
芸大卒業後オペラが大好きだったので「二期会」の研

究生になりました。在籍中にオペラ「蝶々夫人」の公演が決まり、主役の「蝶々さん」にオーディションで選ばれ、幸運にも蝶々夫人デビューさせていたたく事に。曲の練習以外に日本舞踊の稽古、お化粧の指導、オペラの練習と大変忙しい毎日。隣りに本番の日を迎えました。明るく広い舞台に白い素敵な軍服姿のピンカートン、領事官シャープレス、世話女中ススキの出迎えを受けて舞妓姿で日傘をさした娘達の登場です。結婚式が終わりピンカートンとの二重唱が続き一幕は無事に終わり、二幕はピンカートンの帰りをひたすら待つ蝶々さんの家の場面。巷では米国軍人のお遊びだという噂は広がりますが、蝶々さんは疑いもなく彼の帰りを待ちます。ある日、アメリカの船を見つけて大喜びしますが、ピンカートン夫人ケートに会って泣くシーン、私は本当に悲しくなって大黒柱にすがってオンオン泣きました。しばらくすると客席が騒然となり、振り向くと舞台セットの家の天井が曲がって落ち、柱も倒れてきました。

私は腰が抜ける程驚き、ヨタヨタと座り込んでしまいました。伸子！伸子！と母が後方の席から一目散に走って来るのが見えました。客席は総立ち、私は立ち上がり、指揮者や演出家の先生も駆け上がり、泣きながら泣いていました。ウシヨーとおじぎをして泣くばかり、大切なオペラを壊してしまったという思いでいっぱいでした。ところが、客席から大きな拍手と「ヨカッタ、ヨカッタ」とねがいの手拍子が。舞台の柱、特に歌舞伎の日本の舞台では、自分の身体と隙間を作る位にしてポーズをきめるものと、その時知りませんでした。新米ですわね。東日本大震災の様子が知り、被災地の映像で、私はあの若い駆け出しの頃の舞台を思い出しました。後輩を暖かく育て見守り、大事にして下さった先生や先輩、そして大勢の観客。日本人達の優しい「いざ」という時決して見放さないおらかなさと思ひやりに満ちています。若い頃からそれを肌で感じ、生きて来られた幸せを今もしみじみ思い、被災地にも一日も早く本場の暖かい春の訪れが来るよう毎日お祈りしています。

東京芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。東京二期会会員。元日本大学芸術学部音楽学部声楽科講師。蝶々夫人、椿姫、トスカ、トゥランドット、ボエム、タンホイザー他オペラにプリマで出演。コンコネ 50 番に台詞と歌詞を付けた「白雪姫」「赤頭巾ちゃん」は好評で各地で上演されている。今も「ひとり歌芝居」やリサイトを開催

ようこそ、メタボの巣窟へ



日本睡眠学会理事長 清水 徹男 さん (昭和 46 年卒)

毎度、ありがとうございます。会報編集委員会出席者9名中、なんと3人が睡眠時無呼吸(以下、無呼吸症)であったと北島君から聞きました。この数字は男子一般人口の有病率の数倍に相当します。無呼吸症は十秒以上続く無呼吸が睡眠中に数十回繰り返り繰り返す病態です。息を吹き返す際に

は大いびきを伴い、短い目覚めの反応が起こります(さもないと、永遠に眠ることになります)。その結果、眠りは浅くて途絶えがちになり、睡眠時間を確保していても昼間に眠気が生じる、居眠りをするなどの症状をもたらします。そればかりか、うつ病、高血圧、糖尿病、心筋梗塞、脳卒中の危険因子にもなります。無呼吸症は呼吸の通り道である上気道が狭い人に起こりやす。その最も多い原因が「肥満」です。さて、この「肥満」なんです。運動不足と過食による「因果応報」の産物と思われがちです。でも、肥満は働き者の勲章でもあるのです。実は、働き者につきまとう「睡眠不足」と「夕食の時間が遅いこと」は、いずれも「肥満」を引き起こす要因であることが明らかになってきました。ちなみに、医師会の理事会も「メタボの巣窟」であります。

私は腰が抜ける程驚き、ヨタヨタと座り込んでしまいました。伸子！伸子！と母が後方の席から一目散に走って来るのが見えました。客席は総立ち、私は立ち上がり、指揮者や演出家の先生も駆け上がり、泣きながら泣いていました。ウシヨーとおじぎをして泣くばかり、大切なオペラを壊してしまったという思いでいっぱいでした。ところが、客席から大きな拍手と「ヨカッタ、ヨカッタ」とねがいの手拍子が。舞台の柱、特に歌舞伎の日本の舞台では、自分の身体と隙間を作る位にしてポーズをきめるものと、その時知りませんでした。新米ですわね。東日本大震災の様子が知り、被災地の映像で、私はあの若い駆け出しの頃の舞台を思い出しました。後輩を暖かく育て見守り、大事にして下さった先生や先輩、そして大勢の観客。日本人達の優しい「いざ」という時決して見放さないおらかなさと思ひやりに満ちています。若い頃からそれを肌で感じ、生きて来られた幸せを今もしみじみ思い、被災地にも一日も早く本場の暖かい春の訪れが来るよう毎日お祈りしています。

昭和 52 年 大阪大学医学部卒業 大阪府内のいくつかの病院を転々とした後 昭和 58 年 秋田大学医学部へ 平成 10 年 秋田大学大学院医学系研究科教授(精神科学) 平成 19 年 日本睡眠学会理事長

- 日本睡眠学会のホームページ <http://jsr.jp/>
- 「睡眠キャンペーン」のホームページ <http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/suimin/index.html>

東日本大震災被災地からのたより

フクシマで生きる

砂川(坂口) 多佳子(昭和49年卒) 福島県いわき市に暮らすようになって30年以上になります。その町が去年大揺れに揺れました。3月11日の巨大地震と津波、それによる東京電力福島原子力発電所の事故……。町から人が物が消えました。私も3週間ほど大阪に避難しました。4月初めにこちらに戻った直後、11日・12日に震度6の直下型の余震があり、更に大きな被害が出ました。絶え間なく続く余震に見慣れた街並みがかたんと壊れていき、道路のいたる所で陥没隆起通行止めが発生。原発事故の影響で、窓を開けるか開けないか、水道の水を飲むか飲まないか、洗濯物を外に干すか干さないか? 本当にここに住んでいいの? といった今までの想像したこともない日々の連続でした。



壊れた防波堤と崩落した対岸の崖(2011年3月13日撮影)

た。「心が折れる」という日本語を生まれて初めて実感しました。間もなくあの日から1年。あり得ないと思った非日常の暮らしも続けば、それはもう日常になり、折れた心もいびつな形ではあってもつながつてしまうものです。時間がたつて見えてきた事やより深刻な問題もたくさんあり、まだまだ先の見えない状況ですが、最近「フクシマはもう元には戻らない」というあきらめ?ではなく、あえて言えば覚悟!のようなものが出てきたような気がします。

液状化被害で知られた浦安から

梅原祥子(昭和29年卒) 浦安市の被害状況については新聞やテレビの映像で皆様ご存知と思いますが、その裏で活動した災害ボランティアセンター(V.C.)について少し報告をしたいと思います。

実は3、4年前に社会福祉協議会(社協)の呼びかけで有志による災害ボランティアネットワークが設立され市全体の防災訓練にも参加してきました。V.C.は3月12日早朝、社協の職員とネットワーク会員を中心に発足、ニーズ把握受付・マッチング・資材調達配布誘導・輸送などの役割分担を決めてボランティアの受け入れを開始しました。4月15日にV.C.を閉じるまでボランティアの延人数は8600人余うち4分の3は県外も含めて市外の方という状況でした。春休みの時期が幸いしてか年齢別にみると10代20代が64%を占め、若い力が被災者支援に大きな役割を果たして下さったと感謝しています。ボランティアにお願いした活動で最も多かったのが、液状化により住宅の敷地内や道路に堆積していた土砂の除去、この泥かきは人海作戦に頼らざるをえないもので、除去した泥土を土嚢袋に詰める作業も。そのほか水道ガス・電気が止まり、一番長く続いたのが下水道使用制限、そのため給水所や仮設トイレが校庭などに設置され給水支援、仮設トイレの清掃、凝固剤・トイレ袋の配布など、こまごまとした依頼にも対応、これらのボランティア、又その後ろから支え資材や物品を寄付して下さる方々、本当に沢山の方々の純粋な心と力を貰い、心は豊かになったような気がしています。

被災地ボランティア

伊澤(土井) 清子(昭和48年卒) 昨年七月に陸前高田市広田漁港のがれき撤去、八月には大槌町のイトヨが生息する川に流れ込んだへドロ除去のボランティアに行きました。破傷風の危険や熱中症に注意しながら、旅行社にお金を払ってまでも参加しようと思いついたきっかけは、夫(佐久総合病院長)と車で三陸海岸を巡り、津波の爪跡を目の当たりにしたことです。長期の医療支援をするにあたって現地の実情を知ろうと、岩手県立病院長を務める知人を訪ねたとき、「野田村の被害がひどいから見て行って」と言われました。

手ぶらで見て回るだけなんてと気が引けたのですが、「みんな今の様子を見てほしいって思ってるんだ」の言葉に後押しされて、野田村・久慈から海沿いをひた走り、気仙沼に着いた時には日は暮れ、停電で信号すらついておらず、そこらじゅう通行止め。真っ暗な中に油と



ボランティアのみなさんと伊澤さん(前列左端)

●金蘭会東京支部データ

卒業年代構成	2011年			2008年
	女性	男性	合計	合計
～大正15年	13	0	13	17
昭和 2～10年	76	0	76	95
昭和 11～20年	236	0	236	264
昭和 21～30年	186	144	330	338
昭和 31～40年	220	420	640	678
昭和 41～50年	268	544	812	806
昭和 51～63年	183	314	497	420
平成元年～	28	50	78	95
教職員	1	2	3	3
	1,211	1,474	2,685	2,716

※数字は 2012 (平成 24)年 3月 29日現在